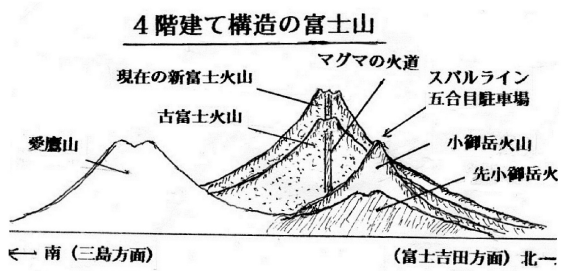


富士山の謎 (3)
富士山は4階建て

3階から4階建てへ

かつて大量の溶岩や火山灰を噴出した富士山の山体は、一体どうなっているのだろうか。以前は3階建て構造だと言われていたが、最近ボーリングしたことで4階建て構造と訂正されたようだ。
あの大きな富士山が4階建てとは、どういうことなのだろ。
探求してみよう。

富士山は、静岡県と山梨県の境にある。310年前には、富士山南東の山腹が突然大噴火し「宝永山」が生まれた。まだ活火山なのである。
まず、この富士山が、何時どのようにして生まれたのか見てみたい。



これまでの富士山は、3階建て構造だと言われていた。だが最近、もつと古い火山がその下に見つかった。即ち、4階建て構造になったのだ。図をみてください。

NO. 33 (通算33)

絵・文・題字
渋谷 一夫

今の新富士火山の下には古富士火山、その下には小御岳火山、更にその下には、最近発見された先小御岳火山があり、所謂、「4階建て構造」だったと分かったのだ。

富士山誕生の由来

山体の基盤である「先小御岳火山」は、数10万年前からあった。その上に「小御岳火山」が約10万年くらい前に噴火してできたようだ。その山頂は、5合目のスパルライン駐車場付近だった。標高は2400mだ。
駐車場裏手には小御岳神社があり、そこが山頂だった

のだ。当時の噴出物は主に安山岩や玄武岩で、今の富士山の岩質とは多少異なるようだ。

その後、1万年位前までの間に、小御岳火山の南側山腹から、爆発的な大噴火が何回も発生し、「古富士火山」が形成された。現在の美しい円錐状の成層火山の原形だという。

この古富士火山が噴出した大量のスコリアという黒い溶岩や火山灰は、偏西風に乗って、南関東にも大量に運ばれて降り積もった。これが関東ローム層という赤土だ。赤土の層は、厚さ5mから8mにもなる。当時の噴火が如何に大規模だったかがよく分かる。

そして、新富士

その後、1万1000年くらい前から、再び噴火が活

発となった。だが噴火の様相は大きく変わり、「噴火のデパート」と言われている。即ち、スコリアや火山灰を爆発的に噴出する噴火だったり、粘り気の少ない溶岩を流出する噴火だったり、様々に変化した。そして、約4000年前の縄文の頃には、やや粘性の大きい玄武岩質の溶岩が流れ出し、円錐形の巨大な美しい成層火山となったようだ。

即ち、これが「4階建て構造の新富士火山」なのである。

